

1. 0から1を成すべし
1. それを、おもしろ、おかしく、たのしくするべし
1. 深く、ていねいに、息を吐くこと

ぼえ犬通信



こっそり油をしばられました！

それはそうと こないだcocoroomは
「特定非営利活動法人こえとことばとこころの部屋」
 になったですよ

長い名前だなあ 名前を決めるにもいろいろありましてね
 のぞちゃんと かなちゃんなんて

「NPO法人スベロン」とかね

ひどいねどうも もうちょっとまじめに考えてほしいよな

ちなみにボクが押していたのが→ **これでしょー**

申請書類をかきはじめたころは
 定款にも ちゃんと

「ニコニコアパッチ軍」って
 かいてあったですよ

ニコニコアパッチ！

の意気ですよ あ、そうそう今回のぼえ犬通信の特集は

特定非営利活動法人
 ニコニコアパッチ軍



死ぬまでつづく。

死んだら、つづかないのだから。人生は、誰かに代わることができない人生のなかで「つくること」はその人の個人的なことからありながら、「つくりつづける」ことを選ぶと社会と深く関わることになる。誰かに頼まれてつくったわけではない「つくったもの」をどうするのか？料理であれば食べてもらいたい。作品であれば見てもらいたい。意見を言ってもらいたい。お金に変えていきたい。仕事にしたいなど「その先につづくこと」を考えれば、その人の視点は変わってゆく。他者へさしだす行為は「つくりつづける」ことを意識していなければ、実行にうつけないからだ。他者を介在させると、文句を言われたり理解されなかったり、恥ずかしい思いをしてとことん落ち込むこともあるだろう。それでも、あきらめないでつづけていると自分のなかに光がみえてくる。

“つくること”と“つくりつづけること”ですよ

洗濯川

太郎冠者が川で洗濯をしている
 どんぶらこどんぶらここと 流れてくるものがある
 太郎冠者は川縁の小枝で寄せてそれを拾いあげる
 川から拾いあげたものは「ことば」

意味のわかることばもあれば
 わからないことばもある
 切れ端 断片も

驚いた太郎冠者は どれを持って帰ろうか迷いな
 がらそのひとつを拾い上げ 持ち帰り
 主人に報告する

太郎冠者が大事に懐にいれて持ち帰ったことばは

「へいせい」

主人はそれを眺めたり 叩いたり 罵ってみせ

「こやつは なるほど冷静だな」

太郎冠者はムツとして

「何を言ってるんですか
 今生きてる日本の時代のことですよ
 叩いてどうするんですか」と

喧嘩になる

「よし 本当のことばをさがしに川にいこう」

川に来て 太郎冠者が洗濯をはじめると

どんぶらこどんぶらこ

また ことばが流れてくる

主人がひとつの言葉を拾いあげる

その掌のなかには「木」

主人

「木か 今日木曜日だな」

太郎冠者

「何言ってるんですか
 曜日の木じゃないですよ 茂ってるでしょ
 山とか公園とか 道ばたとか
 木は人間に優しいんですよ」

「木曜日って 人間に優しいよ」

ふたりが次に拾いあげたことばでも

ふたりがとらえる意味とは合致しない

喧嘩を繰り返さずばかりなので

ふたりはことばをさがしに

上流までさかのぼることにする

(つづく)

特定非営利活動法人こえとことばとこころの部屋

(平成16年10月13日設立)

こえ●表現と実践

表現とは、意志による能動精神の活動であり、情報にあふれる現代社会において、人間存在の意味を知るきっかけとなります。そして、その実践は人間が現実へ飛び込むことができるよう勇気と責任を獲得するものとなります。わたしたちはこの経験を自らの行ない、またその環境づくりにつとめます。

ことば●伝達と探求

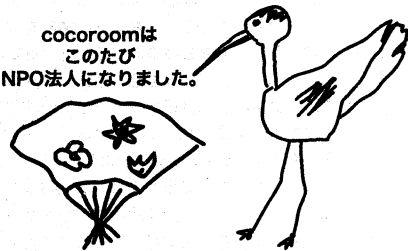
ことばは光りです。存在に対する広くて深い認識の経験をもつことばによって、有効に伝達されていきます。現代において、コミュニケーション・対話の重要性は言われていますが、何に重点をおくかを考えるとき、現実生活のなかでの意識の領域を拡大して用いることばへの探求が重要であると考えます。ことばによって確認され、行為にひきつがれてゆくことに注力して、わたしたちは活動します。

こころ●自立と自律

変遷する時代の推移とともに、「表現」とはもっとも根源的に「生」にかかわる任務であると考えます。これらのいきいきとした活動を通して、思考を深め自身の人生に対する態度として、自立・自律を確立していきます。未来にむかって展開させていくための自立・自律を、わたしたちは活動の軸とします。



cocoroomは
 このたび
 NPO法人になりました。



特定非営利活動法人こえとことばとこころの部屋

事業概要 ● イベント製作及びプロデュース ● ワークショップとアウトリーチ ● アーティストサポートと人材育成 ● メディアと市民相談窓口

特集：つくること、つくりつづけること

思いつきや衝動から来て、0から何かをつくらうとする。この段階は妄想の王様である。0という状況を見つめたうえで、エイヤツと踏みこむ。0な妄想が急に現実になってやってくる。わたしはこの、現実にはぶつかるといふのが大事だと思うのだが、いかがだろうか。つくりつづけることは人生への集中力をさしている。

この秋、コッポルームにいらっしゃった方々に尋ねてみました。

■とりあえず、指、それと腰、あと膝

餘吾康雄（大阪市立芸術創造館スタッフ/NPO Recip理事/NPOremo理事）

ベースを始めた頃、プロが使っているメーカーとか、オリジナルデザインとか見るとつい欲しくなったり改造したりしてただけで、やっと最近になってそんなものはあんまり意味のない事だと気付いた。どれだけ良い機材を集めても結局満足出来なかった。では、何に気付いたかという、指先。腰。膝。特に指先にどれだけ神経を込めるか、で音色がかなり変わる事に気づいた。それからどんな楽器でもよくなくて、逆に高い楽器というのはナイフに反応するし、ってんで良さが分かってきた。ようは、そのような指、腰、膝をつくるということ。つくりつづけることで、自分を知る事にもなるし、他人とは違うんだって事を意識する事にもなるし。僕の最高の友人から「黒人の指ってマメが出来にくいから、あんな柔らかいナイフな音色の音が出るんだよ」って教えてもらった。だから、あんなに素敵なリズムをつくりつづけられるんだろうな。当然、僕には真似出来ない。



■運命から愛されてる 渡辺作郎（音楽、造形などの活動、カフェさくろう展主）

つくる事っていうのが、すべてに繋がっている。つくりつづけるっていう事が生きる事だって、いつのころからか思うようになった。目に見えるものでなくてもいいし、なんでもいと思う。この頃は、つくるっていう事とくに意識していない間に、なんかをつくっちゃたりしている。だから、だれか？なにか？に自分をつくられている気がすごくして、自分でつくっていると思っているもの全てが、つくらされているっていう感じの時が多くなってきた。そうすると、もうお手上げだ。運命っていうのか、そういうものには逆らう事が出来ない。そのゆったりとしたスピードと力のかんじる毎日。絵の具や顔が無くても、ライブで充分な声をだせなくても、運命から愛されてると感じる。うん、愛をつくり続ける事をおしえてもらった。あなたから。



イラスト：本人

■つくることは夢みること 山本むつみ（フラメンコライブ「ばかの密会」主宰）

物心ついた頃からすでに何かを作っていた。まずは自分の居場所をつくり、お友達をつくり、ちょっと昔は「ひとからどう思われているのか」なんて、とここで意識的に自分自身でそれを考えると我ながらずいぶんものぐさになったものだ。人生が暇つぶしであるならば、欲どおしい私は思いつき楽しみ時間をつぶしたい。ものごとをつくり始めるにあたっては意義もへたくれもウチクもなく、いつもなりゆき思いつき、意識とは別の動物的直感で取り決めてゆく。神様のご指示でもあるのだろうか。これ、いややなあ、面倒やなあ、って意識の上では拒否しているのに口が勝手に二つ返事で引き受けてたりするものだから我が身が勝手にやっかいた。だがしかし状況如何にかかわらず始めちゃったことは上質の出来上がりを目を夢見ても持たずに突き進む。自主企画のライブ活動をはじめて3年が過ぎた。全く何も無いところから、かかわるひとのパワーを集め思いを紡ぎ夢を見る、ひとりでもみる夢もよいが出会った仲間と一緒に見る夢は格別だ。それは一生に一度きりのこと。この一生に一度きりの夢を重ねて、わたしは暇をつぶす。



■「映画をつくる場所」を作る。

富岡邦彦（映画プロデューサー）

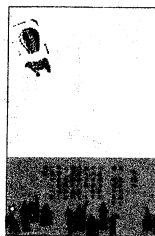
作りたいのになかなか作れないのが映画です。良い映画が見たいのになかなか見れないのが映画です。で私は見たい映画をこれまで十分に見尽くしてしまったという「不幸者」だと思っています。これからは見たいものは作らねばなるまい、しかし自分が見たいものと作りたいものは多少異なります。作りたいものには限界がありますが、見たいものには限界がなかったりする。そこで誰かに私が見たいものを作らせるのです。こういう役者とスタッフでこの監督にこんな作品を作らせる。しめしめ、私が見たい映画になってきたぞ。ちょっと嘘をついて「解らない」とは「面白くない」とかいいかげんな言葉でいかにも解った風な口を利きつつちょっと編集を変えさせて私が面白い映画にしたり、監督もいつのまにかその気になって完成させる。そしてこれはこう売るべきだ！などと断定してその方向に向かい皆を走らせる。それが正しいという理由はないが確信はなぜかあったりする。不思議だ、スピルバーグならこうするよな、ヴェンダースならこうするよな、でゴッダールならこうするんじゃないか？ロッセリーニはこうだよな。小津ならこうか？では清水宏ならこうか？で、予算がこれだけしかないから今回は清水でいこうよ、近場の温泉街、うーん鳥取に決めた！ここで主演は長塚圭史だな、音楽はくるり、うーんこれで決まり、これで負けたら観客が馬鹿なんだな、いいよ、観客は。俺が見たい映画をつくるから。というわけで山下敦弘が監督した「リアリズムの宿」を作ったのだった。で「場所」は？てか、そうそう、この場所づくりこそ映画作りの最も重要な根幹なんだな。この話ははたとしよう。



今年作った浅川周監督 溝口麻衣主演「赤を視る」 溝口は関西テレビ「見えむら」に出演中の17才の女優

■1秒は馬鹿みたいに永い 長谷川雄一（創作グループJaajaの詩・音楽担当）

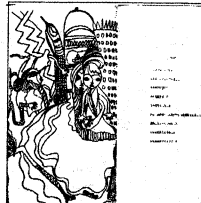
何故書くのか何故歌うのか分からない。何故それを続けるのか分からない。別に滅茶苦茶楽しいわけでもない。かと言って辛い訳でもない。仕事にもならない。遊びにもならない。歌は上手く歌えない。詩はルールが分からない。でも努力なんかしたくない。本気にすんなれない。でも時間は馬鹿みたいに永い。80年生きるとして約3万日。3万日は25億9千万秒。1秒は馬鹿みたいに永い。暇は潰さなきゃならない。書いて歌って演ずる。出来上がったものがどうなのか分からない。吟味してる暇はない。だって吟味はあまりに退屈過ぎる。だから全部出してみる。避ける人が多い。立ち止まる人がいると嬉しい。1人立ち止まっても全員でも同じくらい嬉しい。嬉しいは1秒くらい続く。1秒は馬鹿みたいに永い。でも退屈は25億9千万秒。死ぬまで退屈から逃げ続けなきゃならない。本気でやれたら楽しいだろうか。冷やかしくらいて丁度いいと思ってる。本気になるには一生は馬鹿みたいに短い。



■60億分の1のものづくり論

JUURIジュウリ（詩人の卵）

いつも満身創痍でいること。乾いていることがものづくりを続けていくうえで必ずだと地球上の60億分の1の私は信じている。好きな人と結ばれてもテストで100点とって満たされてはいけない。孤でいること。いつも考えること。世の中かなしいことばかりだから、かなしいことを表現すべきなのか？それとも世の中かなしいことばかりだからこそ楽しい世界を表現すべきなのか？器用か不器用かによっても両選択肢の択一に関係してくるだろうが。もっとも不器用な私はかなしさを表現することでしか自らのカタルシスを得ることができない。18歳の頃より詩を書き始め、本格的にものをつくる、表現する日々を踏み入れようと筆を執った。そして今は24歳。人は日々、成長あるいは変化するので毎日毎日違う人間、節操無く明日には違うことを言っているかもしれない。今日の自分、明日の自分が違う人間であってもとまどうことなく謙虚に謙虚につくり続けることが、ものづくりを続ける継続性に繋がると私は思っている。



■思春期

佐藤匡（もぐらが一周するまで/音楽しづづける人）

少年が子供から大人になる時期、僕にとってそれは、少なくとも何割かは、新聞のテレビ欄との格闘だった。というのも、当時の僕にはマイルームをはじめとする一切の聖地が無く、うら若き魔少年達の自慰行為と極めて密な「一人でじっくりテレビ観賞」から最も離れた位置にいたのである。とまあそんな訳で、時折来たる留守番には本当にどきどきした。留守番が決定しようものなら矢継ぎ早にその日のテレビ欄、特に映画あたりは入念にチェック。内容など全く知らないが故、完全に題名からのみで如何わしいイメージを創り続けては時を待つ。すでにそのあたりからまだ見ぬ彼女達の意気込みは相当なものだがいざ放送が始まるとさらにその熱量は増幅。

本来の物語はどこか遠い所へと押しやられ、その瞬間に創られた展開で事は進み、そうしてまた押しやられては創られ。繰り返されることとおおよそ二時間。そこには、「如何せん題名のみだった為…」といった事は存在せず、在るのはただ、つくること・つくりつづけることへの快感と疲労、それだけであった。とまあそんな大袈裟な時期がいつから始まっていつのまに終わってしまったのか。願わくは今尚も続いていておくらずんば虎児を得ず。

【もぐらが一周するまでスケジュール】 ●10/31(日)19:00@新世界 BRIDGE「鳥」鳥1 vol.1 ●11/7(日)19:00@京都EAST ●11/17(水)@関西大学特別講堂内「the wall has eye, the wall has ear」



「つかったもの」いう訳で、上記の様な感じで音録ってみました。興味深い方は surinam11@hotmail.com までお問い合わせ下さい。郵送させて頂きます。

■つくるということについて

辻本恵美（花店勤務）

お造りをつくる。そう、おさしみのこと。料理ってそもそもつくるもんやのに、お造りなんて名前をなんでつけたんやろ。「魚肉を切り分けたもの」が「料理をつくる」を飛び越えて、お造りとなるゆえん。そこに集約される、つくるということ。彼は魚をさばりこつと決意する。お造りをつくらうとするのだ。納得がいこうといかなかるうと、魚は食べられる。We can eat the fish.お造りにならんかったら、焼いて食うてまえ。ちうことで何でもやり直せる。海に魚のいるかぎり。そしていつか納得のいくお造りがつくられて、それもまたペロリたいらげられていく。彼はこうして一人前の板前になる。つくるということとはまづつくるうとすることありきで、そのわけはどうぞであれ出会ってしまったからつくるのだ。そうす、なんでもいいのです。自転車でもおにぎりでも会社でもボールペンでもセーターでも椅子でも布団でも、遠くを見るためのものでも、ちいさなものをつまむことでも穴掘りでも、つかったものをこわすことでも。せやで、なんでもええねんで。まずは出会い、そしてよく感じることをイメージ、イメージ。そのあとは例のアシ。継続は力なりヨ。で。まづもって、はばたかせたビジョンを、どこまでおかけられるかどうかってこと。 Use the jet, if you can. やで。

■自転車を作ろうと思う僕

金友 祐人（フリーター歴17日目）

フリーターです。こんにちわ。初めまして。会社を辞めると毎月一定額のお給料の振り込まれません。しかし、ぼえ犬通信読者皆様、ご安心下さいませ。10月（平成16年9月度）のお給料は無事振り込まれました。ア、当然の事ながら来月11月以降、空っぽの貯金残額→(MIZUHO堂島支店普通預金2099895あしながおじさん急募)をコンビニATMにて確認、ぬくぬくと温室育ちのひ弱なほうれん草みたいな僕は、貧弱な細胞を総動員して生存危機を想定しよう。というかほうれん草は、温室時代にそのひ弱さに気が付き成長という事を考えたかった。原始的に葉緑素が海より上陸して陸上植物に化していく過程に酷似します。コレまさにフロンティア！自動車に乗るのも電車に乗るのもお金が必要です！ア、自転車に乗ろうと思います。乗っても乗ってもタダだから。しかもそいつを売ろうと思います。こヒヒヒヒ。



PPPP 出演する勇気のある人はれんらくしてください

■出演者一覧 9/26~11/9 *各出演者のレビューは、ココルームのウェブサイトに掲載しています

- 9/26 ●「ひとりインターナショナル、海外からの刺客登場」
Dead Guy Ale(アメリカのビールの名前)
ZUDADADA(江崎×井崎×水谷×井上)
フーゲツのJUN(電腦風月堂)
闇色鏡盤(ひとり楽座)
野村誠×上田假奈代(将棋作曲家×cocoroom代表)
山内桂×take-bow×クルトコーゲル(日本の奇才×ベルギーからの刺客)
- 10/9 ●「reading THE BIG ISSUE」
上田假奈代(詩人)、ウラン・ジクスー(ボイスパーフォーマー)
勝野タカン(歌×ギター)、セキミハル(novaexpress)
LOVEDLOVED(純愛ロック)
つきやまいくよ(パフォーマンス)
橋安純(詩人)、パンツパンツパンツ(ジャンクブルース)
- 10/10 ●「絆-きずな-」
びびんげ(夫婦生活)、山本雅史(やっぱり出ます)
上田假奈代とほんまに世界の果て(フランスからの刺客乱入！)
足立大輔(夫婦音曲)、jaaja(名古屋からの夫婦)、MALTHUS-ryotaro&take-bow
(別に夫婦じゃありません)、勝田真由(CHIMESからの刺客1)
- 10/26 ●「うん、ボク、よその子になってもがんばるよ。」
手廻し活動写真(井土・小崎奏嗣)、STYLE(NPO法人理事ユニット)
weather spoon(存在としてのロック、適当なるもの(名も無き修羅))
森川美穂(CHIMESからの刺客2)
- 11/6 ●「P.P.P.P.オープンマイク始動」
アプリケーションエラー(ライブみたいな何か)、空間悠々劇(劇的な何か)
江藤笹夏(朗読のような何か)、小笠原淳(小笠原流吟詠詩術始祖)
若原光彦(ひきこももゴ)
- 11/9 ●「P.P.P.C.B.N.W vol.4(たぶん最終回)」
スッパマイクロパンチョップ(childisc/from東京 with カトウヨシキ)
Rubyoria(guest Yabemilk)、大和川レコード
北紫子(guest スガナミ、人形製菓師)

P.P.P.P. どうだろう御殿4~NPO職人が昔つったおぼけの本

連載をしているつもりは全くないのだが、どうだろう御殿シリーズも、はや4回目を迎えた。この連載(?)が功をそうしたのか、最近ぶでいんぐ齋は「どうだろう?」とは言わなくなったような気がする。いやそんな気がするだけか。油断はできない。

さて、今回のぼえ通の特集は「ものづくり」。ぶでいんぐ齋は「職人アーティスト」である。つまりサービス過剰な人ということだ。巨大なプリンも、低予算で成しとげる大工仕事も、好評を得ているお料理ケータリングアートも、彼が仕切っている回のP.P.P.P.C.B.N.においても、彼の過剰なサービスの姿勢は変わらない。つついやりすぎてしまう。薄利。利がない時もある。非営利の職人なのか? NPO職人ぶでいんぐ齋は「どうだろう?」かどうか? などと言っている私も人のことを言えたものではない。つつい気をつかひすぎてしまい、いろんな場面で墓穴を掘っている。

それは、きっと淋しいからです。お金のないおっさんには生きにくい世界だよなあ。ラプンターのタムちゃんやココルームのお手伝いに来てくれた夜のこと。事務所の奥で上田となにやらときやあきやあ言っている。

「坂本一喜日本妖怪変化図/坂本プロ」

なんじゃこりゃ。何枚

ものレポート用紙にエンピツで精密に描かれた水木しげるタッチのおぼけの絵とおぼけコラム。筆圧はあくまでMAX。丁寧に製本され、手作り化粧箱に入っている。著者近影には、学生服をきた坂本ぶでいんぐ齋君(14歳)が赤いハチマキを巻き、赤い如意棒のようなものを構えており、「もっとつづけてほしい」という意見もあったが、この本を売ってお金をもうけようと思ったのが、全然売れないので、四巻というはんばい数が完結させてもらう」などと書いてある。サイン入りの一点物だ。なんというか、中学生マインド全開なのだが、本からただよう妖気というか、気迫というか、空気がただごとではない。上田は、「Pちゃん! あんたむかし天才児とか言われたんやないの?」と目をまるくし、たむちゃんは「ひえー」などと言っている。ひえー。



ある夜遅く、ココルーム事務所、P.P.P.P.やらCHIMESにまつわるアーティスト達について、ハコ側の姿勢やら、モチベーションやら、お客を呼ぶ呼ばないなど、答えの出ない話をぐるぐるしている最中、次のぼえ犬通信の特集の話になった。それを聞いたぶでいんぐ齋は「つくるやつは放つといつもつくるんやけどな」と、ぼそつと言うのであった。



BOOKS ARCHIVES

声か明日のページをめくって

BAは月に4回、ほぼ毎月曜日、仕事帰りに立ち寄れる8時半から始まる。ウランさんは毎回、短編を朗読。楽器奏者を連れて来て、ジャジィな時間。上田さんは、えんえん長編小説「吹雪の星の子どもたち」を読んでいる。毎回最初にあらすじを話すのが大変そう。彼女の声はほんとに眠りやすい。寝転がって聴いている(眠っている)人の姿もよくみうけられる。どちらの時間も味わいは違いますが、声の楽しさが伝わってくる。

これまでのおはなし

9/21,10/4,10/18,11/1→「吹雪の星の子どもたち」山口泉著、朗読:上田假奈代

9/27,10/12,10/25→「快樂通りの悪魔」ティビッド・フルマー著、朗読:ウォン・ジクスー

*BOOKS ARCHIVESはウェブでもアーカイブされています。

<http://www.log-osaka.jp/broadcasts/booksarchives/index.html>

READING THE BIG ISSUE

reading THE BIG ISSUEの報告(前篇)

報告:上田假奈代

■ホームレス問題への関わり

発端は6月までさかのぼる。友人Yさんと、ココルームの事務所でコーヒーを飲みながら、イベント企画のミーティングしていたときのことだ。突然Yさんがわたしに尋ねた。「THE BIG ISSUEって雑誌、知ってる?」

知らなかった。発祥はイギリス。ホームレスが雑誌を路上で売る。

大阪の人がその日本版、ホームレスの自立を支援することを目的とした雑誌を発行する起業をしたのだと教えてくれた。こういう企業を社会的企業と呼ぶらしい。そのとき、わたしはこの雑誌のことをからめたイベントをしたいと口にしたが、却下された。

翌日、京都へでかける仕事があり地下鉄に乗ると偶然、釜ヶ崎のNPOの理事のひとりと同じ電車になった。THE BIG ISSUEにお詳しいですか?と聞くと、「ああ、あれね。いちばん困るのは販売員の方だよ。もし途中で売れなくなったら、編集部は別の仕事すりゃいいけど、販売員はまた路上に戻るかしかない。」梅田駅の信号のところに売っているからと教えてもらい、わたしは梅田駅からすぐに阪急電車に乗らず、信号のところまで行った。確かにそこには販売員の姿があった。最新号と持参されていたバックナンバーを全て買った。ありがとうございます、と頭を下げたが、こころのなかで何かが疼いた。京都へ向う電車で一気に2冊を読んだ。わたしが目をとめたのは、販売員の人へのインタビュー記事と雑誌そのものの仕組みについてだった。

■コンセプトはTHE BIG ISSUEの周知、そして仕事

そして次の日、編集部に電話をした。「わたしは詩人で、御書を朗読して周知をはかるイベントを行ないたいのです。許可いただけますか。」

編集長の5さんは快く了承してくださり、わたしは企画書をすぐに送る約束をした。

コンセプトははじめから決まっていたので、企画書はすぐにできた。

THE BIG ISSUEを周知すること。そのために、プッキングライブ形式をとること。

ホームレス問題に関心のある人を集客するのではなく、THE BIG ISSUEを知らない人を知ってもらいたい。フライヤはTHE BIG ISSUEのロゴタイプを用い、この仕組みを掲載しイベントに足を運ばなくてもTHE BIG ISSUEがどんな雑誌かわかるものとした。

すぐさま出演交渉に入り、頼みこんでスポンサーをとり、予算を確保した時点でデザイナーに発注し、カラーのフライヤを作った。配布期間を4ヶ月もつけ全国に向けて9000枚を配布した。わたしは持ち出しイベントにするつもりは最初からなかった。音響さんや出演者はノーギャラでもいいよ、と言ってくれたが、これを仕事としているのだから、プッキングライブ形式のギャラを支払うことにした。



CHIMES

—prick up your ears—

Cocoroom booking exhibition

◆今後の予定(開廊時間12:00~22:00 入場無料)

・「バレード」 11/23(火・祝)~12/5(日) 市村桂子/写真とことば

◆出品アーティスト募集

130,000~(壁面展示利用・期間・その他要相談)

平面/立体作品、写真、インスタレーション、ミクストメディアな作品を

展示の方法から応相談

問合わせ→cocoroom事務局キュレーション担当(阿佐田巨) wataru@kanayo-net.com

プロジェクト音楽

阿佐田巨(a.k.a. 大和川レコード)

先日、或るプロジェクトを、梅田哲也氏(自作スピーカーを用いて様々な音の出力の在り方を追求するアーティスト)とともに、本町のギャラリーで実行した。「Cubis/mzku」という名のプロジェクトである。4階建てのビルの屋上、2階(ギャラリー)、4階(バーベキュー)に仕掛けられたビデオカメラとテレビモニターを介して、お互い壁一枚隔てられた別空間にいる僕と梅田氏が、あの手の手を尽くしてコミュニケーションを計り、「演奏」をするという企画であった。結線関係/システムの都合上、様々なトラブルもあり、お客様には見苦しい点もあることを承知してのことだが、結果として、非常に意義のある作品を発表できた。以前から僕は「プロジェクトとしての音楽の提示」を目指していた。また今回は大和川レコード(NPO)での作品ではなく、「コロポレイト」という形で作品を作れた面白みもある。

音楽を生業とする者が曲を作り、その曲をライブで発表する。ミュージシャンならば至ってあたりまえの行為を、あえて様々なコンセプト/シチュエーションの中で行ってみたい。音楽を作る過程、聞かせる状況までをインスタレーションとして提示してみよう。一見無駄で、「普通にストレートに演奏したらええやん」と突っ込まれそうな行為をあえて行っている。僕はその行為そのものに、新たな切り口の表現が生まれる可能性を感じている。

阿佐田巨(アサダタケル)/ライブ作家。ときに打楽器奏者。

ソロプロジェクト「大和川レコード」で風景を切断するライブインスタレーション作品を発表。NPO法人cocoroomスタッフ。現在、ミクストメディア型出版プロジェクトを立ち上げ中。

隨時求新同胞以愛

詩的空間月每更新

交流向上百花繚乱

於集電腦女流詩人

蘭

Web 女流詩人の蘭の会

<http://www.os.rim.or.jp/~orchid/>

ウェブ女流詩人の集い 蘭の会 アンソロジー

¥1575(税込み)

発行: 詩学社

装丁: RADIO DAYS

ココルームでも好評販売中

<http://www.os.rim.or.jp/~orchid/>

OLU project presents

キモノ 着物 きもの
 キモノがいっぱい
 ぼえ犬くんもうれしそう

すべてのご予約とお問合せは: ココロムOLUproject係
 tel:06-6636-1612, 06-6636-1662 e-mail:cocoroom@kanayo-net.com
 OLUprojectは平成16年度大阪・まちの賑わいづくり助成事業に選ばれました。
 OLUprojectは、和文の種ともいえるキモノをアートの角度から、日常性の中へ再提案する試みです。

●キモノでいこう!

キモノでお洒落して、アートを体験してみる秋の一日。

■キモノでBLUES! 「BLUES NIGHT」塩次伸二バンド
 伝説のプロデューサー・奥村ひでまろが贈るブルース入門/上級編。
 日程: 11/18(木)/会場: RAIN DOGS
 料金: 投げ銭制/集合: RAIN DOGSに19:00

■キモノで文楽! 通し狂言「仮名手本忠臣蔵」第二部【国立文楽劇場開場20周年特別記念公演】
 伝統的でありながらミニマム。アートの精髓とも言える文楽の代表的公演。
 日程: 11/20(土)/会場: 国立文楽劇場
 料金: ¥5000 (通常価格¥5800)*予約受付11/5(金)まで/集合: 国立文楽劇場前に15:30

■キモノでコンテンポラリーダンス!
 「大野一雄の宇宙と花」舞台公演/大野慶人「魂の糧」+金満里「ウリオモニ」
 舞踏→コンテンポラリーダンス界において日本が誇る至宝、大野一雄へのリスペクト企画。
 日程: 11/26(金)/会場: Art Theater db 料金: 一般/¥3000 学生/¥2500 /集合: cocoroomに18:30
 Art Theater db: 大阪市浪速区恵美須東3-4-36フェスティバルゲート3F/tel:06-6646-1120

■キモノで能! 大阪現代芸術祭プログラム Bridge de Noh 能「善知鳥」
 夕暮れの大坂の街を見下ろしながら、時代を結ぶ異空間の幻想を。
 日程: 12/18(土)/会場: Bridge
 料金: ¥5000/集合: フェスティバルゲート4階cocoroomに16:20

■キモノでP.P.P.P! 「P.P.P.C.B.N.」cocoroom booking night
 新世界のカオスから、次世代のアートが生まれる。
 日程: 12/25(土)/会場: cocoroom
 料金: ¥1500+1drink/集合: フェスティバルゲート4階cocoroomに18:30

※すべてのイベントは要予約制です
 ご予約方法: ココロムOLUproject係宛に、電話かメールにてご予約後、5日以内にチケット代金を指定口座まで、ご入金ください。(振込手数料はご負担ください) ※チケットは当日、集合場所でお渡しいたします。/※本企画はツアー形式です。集合時間に遅れないよう、お気をつけください。/※イベント当日より2週間以降のキャンセルの場合、払い戻しが出来ない場合がございます。またキャンセルの場合、振り込み手数料を差し引かせていただきますことをご確認ください。

●キモノでクリスマス

○昼の ママとこどものきものパーティ
 12月23日(木・祝)12:00要予約
 ママとこどもランチペアセット 2500円(2ドリンクつき)
 大人1名 1500円(1ドリンクつき)
 こども1名 1300円(1ドリンクつき)/ランチのあとは、年賀状をつくらう

○夜の 男と女のきものパーティ
 12月23日(木・祝)19:00 要予約
 3500円 ディナーと1ドリンク(お一人様)/きものガールズによる出張ポエキヤバスペシャルライブ「PAPA NoEL」
 *着付けが必要なたは、始まるまでに着付けをいたします(要予約:別途2000円)

●キモノの美しい映画シリーズ第一回「祇園小唄絵日傘・第一話 舞の袖」
 2005年1月16日(日)昼の部14:00 夕方の部17:00 (開場は30分前)
 料金: 前売 1500円当日 1800円(ともに+1ドリンク)

「祇園小唄絵日傘・第一話 舞の袖」
 1930/マキノプロ御室/18flp/40min(オリジナル5巻)
 ■映画と即興演奏: hazee(エレキ三味線)
 ■映画とキモノ対談
 高岡邦彦(映画プロデューサー)/上田假奈代(詩人) ※夕方の部にはゲストあり



「あなたとわたしの間に」詩情ワークショップその1

今年の9月、私はふたつの「あなたとわたしの間に」のライブレコーディングを担当した。私は、「詩人・上田假奈代の十番勝負やねえ」などと冗談を言っていたが、これらのセッションを通じて、それぞれの表現者が持つ意志の強弱さを見せつけられた思いがする。

■2004/9/11(土)
 cocoroomでのイベント「あなたとわたしの間に」主催: 大阪市・(財)大阪都市協会
 出演: 内橋和久(音楽家)/秋田光彦(僧侶)/上田假奈代(詩人)

3者のソロ出演だった第一部の後、休憩をはさんで、第二部のコラボがスタート。秋田住職の朗々たる声呼び水に、内橋氏のギター、上田の朗誦が絡み合う。上田作の「あなたとわたしの間に」という詩は、大阪の橋の名前が沢山出てきて、ある種、町あるきの詩のようだ。見方によっては軽薄にもなりかねないこの詩を3人は見事な陰影とともに表現した。川が交差するように生と死が行き交う。3人それぞれの持ち味とスタンスは全くブレない。個として独立した3人の間には圧倒的な距離感とともに調和があり、「あの世」のように静止した空間と時間があった。「鶴町」では、遊女の悲しみが絶望の淵をさまよう。川が流れている。息をのむ「鶴町」のライブノワールから一転、「般若心経」では昇天感(変なことばだな)たっぷりのエンディング。3人ともに初手合わせで、全くのインプロヴィゼーションだったようだが、それぞれの死生観まで覗き込んでしまったような気がした。

■2004/9/26(日)
 P.P.P.C.B.N.での「あなたとわたしの間に」公開リハーサル
 野村誠(現代音楽家)/上田假奈代(詩人)

来年3月に予定されている「大阪楽座事業・カレイドスケイプ/あなたとわたしの間に」の宣伝を兼ね、一度だけのリハーサル。18:00のスタート直前まで、野村氏は「風邪をひいた」とのことで、ぐっすり眠っているし、上田はカフェでビールを注いでまわっている始末。どうなることやらと心配していたが、穏やかなピアノのパスセージから始まったライブパフォーマンスは、見事なものだった。「鳥」。上田の叫びとともにピアノが嵐のように舞い上がる。ピアノと朗誦というこれ以上ない位ミニマムな編成なのに、目の前で展開しているのは、壮かつ繊細、小鳥が一杯に羽ばたきながら空をゆく感覚。その飛翔感は続く「あなたとわたしの間に」でピークを迎えた。野村誠が叫んでいる。目も合わせないふたりの間に、あたたかい信頼とユーモアが脈打っているのが伝わってくる。MCをはさんだ「鶴町」は9/11のライブノワール版とは好対照に、夏空の下を自転車で行き出すような生命感あふれる演奏。同じ詩が全く違う表情を見せる。おもしろいなあ! 緑の川縁をゆく女の乗った自転車の影が、遠く、小さくなっていく。ああとこどもでも走っておいきなさい。

上田假奈代 野村誠「あなたとわたしの間に」特設ウェブサイトオープン!
 9/26のライブパフォーマンスの音源をストリーミング配信中
<http://www.kanayo-net.com/cocoroom/topics/50305.html>



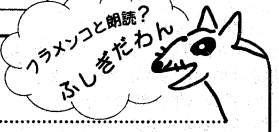
歴史的建造物を使用した公開ライブレコーディングイベント
 カレイドスケイプ「あなたとわたしの間に」
 (平成16年度大阪楽座助成事業)
 詩人・上田假奈代 音楽家・野村誠
 糸通の町・大阪本町を舞台に、2夜のリアルライブが結晶する
 日時: 2005年3月5日(土)6日(日) 19時開演(予定)
 会場: 三木楽器開成館内サロン
 入場料金: 前売 ¥2500 当日 ¥2800(予定)
 主催: こえとことばとこころの部屋
 ※当日は、ライブレコーディングを予定しています

『大阪ジブシー』

水と火の街で
 燃える家などない女たちが
 夜の道路をヒールで蹴って
 今生の月に祈る



日程: 2005年1月29日(土)18:30開場 19:00開演 入場料: ¥2000+1drink
 出演: フラメンコガールズ/山本むつみ、山口明子、青木真美子、左山啓子、嶋津未未、西野真由美ほか フラメンコギタリスト/伊達ちづ子 詩人/上田假奈代
 主催: 大阪ジブシー事業実行委員会
 共催: 特定非営利活動法人こえとことばとこころの部屋
 e-mail: cocoroom@kanayo-net.com <http://www.kanayo-net.com/cocoroom/>
 ※楽しいフラメンコ情報はこちらから/大阪JR環状線円断ライブ計画: <http://ole.poke1.jp/>



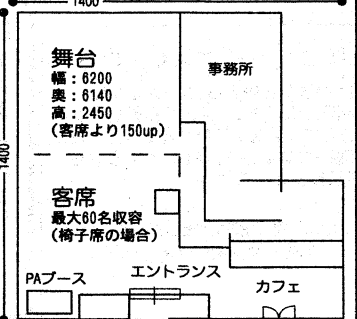
cocoroom ますます使いやすくなって

劇団バック「co屋」
 co屋5日間バック(木金土日)15万円
 co屋4日間バック(木金土日・金土日) 13万円
 co屋3日間バック(金土日) 10万円
 co屋2日間バック(土日) 8万円

*ステージ数問わず一律料金*使用時間12:00~22:30*仕込・ばらし含む*月曜は18:00まで*機材管理料含む(音響スタッフはつきません)*音響使用は3万円*その他の曜日でも可*お客様には入場の際1ドリンク(¥500)別途必要*情慮協力いたします!

●キャバ(椅子)席: 60 ●舞台スペース6×6m ●音響システム完備 ●照明: 調光3系統(店舗用) ●搬入/出/駐車場: 2台(要申請) ●定める使用規定にもとづいてください。くわしくはココルームまで

今から申し込み開始! 早いもの勝ち。公演は2005年8月末までいたします。
 お申込み・お問合せ: ココロム
 tel:06-6636-1612, tel&fax:06-6636-1662 cocoroom@poppy.ocn.ne.jp 担当: 飯島、坂本、上田



詠唱日本国憲法

全国CDショップにて好評発売中
 注文番号ZECO-001
 ¥2100 inf. ココロム

「The Lighthouse Tapes vol.2」 2004.4.17 沈黙のとき

その日のDATテープには緊張が収められていた。ガットギターのやわらかい音色の中で、参加者の雑談がつづく。私の声がワークショップの始まりを告げる。人も木々も楽器も呼吸しているのだ、とその声は言う。大きく深呼吸。上田の声がつかれた。新芽のお話。あたたかな春の日だ。中上健次の「鳳仙花」を上田は読んで聞かせる。熊野を舞台にした物語。静謐な時間が流れている。しかしこのテープには、時折、茶々を入れる大声が録音されていて、その度に場全体に微かな緊張が走るのが聞き取れる。読了後、上田を中心に「海」についての対話をはじめ。ある者は溺れた話。またある者は昔の恋人の哀しい思い出話。参加者達の海にまつわるエピソードに、わいわいと楽しもうと広がりだして行く。そして、そんな中、ある年配の女性の思い出話が始まる。はじめはあいつも入っていたが、だんだんと声高になり、孤立したトーンを帯びてくる。場が沈んでいくのが、テープからでもよくわかる。和やかに見えるワークショップ自体、実はギリギリのバランスで成り立っている。それが響く沈黙の数秒。私に一体何が出来ただろうか。上田は黙って女性が喋り終わるのを見守っていた。テープからは、やがて場に静かな集中力が戻るのが聞き取れる。最後までハミングは起こらなかった。その後、彼女がワークショップには来ることはなかった。4ヶ月が経過したある日、私は彼女と顔をあわせ「お久しぶりですね!」と声をかけた。彼女の腕には包帯が巻かれている。「あなたは誰ですか?」「私ですよ、ワークショップでお会いした飯島です」「憶えています、あなたは誰ですか?」少し会話してから、私はその場を辞去した。先日、ライトハウスの食堂で再び彼女と会った。「飯島さん、前に声をかけてくれたねえ」と彼女は言った。

声とことばのワークショップ 11/12・26、12/3 すべて金曜 13:30 無料 会場：視覚障害者リハビリセンターライトハウス 大阪市鶴見区今津中2-4-37

こころの満腹

加久裕子 (名古屋のニュー詩姫)

夜空の星がもっと近くで見れたらいいのになど誰かが頼ったから、街にイルミネーションが灯った。夜が早く来て子供達で暗がりを怖がったから、街にイルミネーションが灯った。恋人達がお互いの瞳を綺麗に見せたかったから、街にイルミネーションが灯った。名古屋のメインストリート、広小路通りにもイルミネーションが灯った。その下を人が足早に歩き、大きな地下街へ流れていく。私が働いている場所、栄は名古屋の中心街でとても人が多い。アパートから自転車で通勤している。自転車で乗っていると、風が冷たくなっていくのを感じる。私の仕事はビジネスホテルの調理場で料理を作ること。朝のモーニングに始まり、昼のランチタイムを働く。資格や免許は持っていないが、作るこが好きで始めた仕事。お店は常連客が多く、カウンターキッチンから「いらっしゃいませ」より「こんにちは」で迎えるアットホームな雰囲気。その中でも80歳くらいのおじいちゃんが「日替わりバスタをほぼ毎日食べにくる。街で配っているポックティッシュを3-4個手にして、私がひとりキッチンを任せられるようになった土曜日は、平日のビジネスマンやOLに比べてお客さんは少なく、おじいちゃんもめったにこない。でもこの間、「困るがあるからこちらへ出てきたついでに寄った」ときてくれた。いつものゆっくりしたペースで食事をして、食後のコーヒーを飲んだ後、私に一言「今日、来てよかった。」そんな風に言われるなんて思ってもいなかった。うれしかった。私が「うれしい」と言うと、笑って返してくれた。「ごちそう様」や「美味しかった」の一言が素敵な言葉なんだと実感した。この仕事をやっていてよかったな。自転車で乗って帰宅した。風は朝よりもっと冷たくなっていくけれど、私のこころは満腹で温かくなった。もう、すぐそこまで冬がきている。今日も私はお客さんのお昼ご飯を作っている。

鉄腕ポエム in 大阪ココルーム

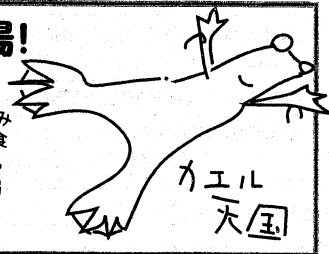
近藤洋一 (鉄ボエ主筆)

魚偏に女と書いて炭焼。舌を抜いたアイスピックチンパンジー。お姫様抱っこして7階からポイ捨て。女から顔や手を出さないでください。ジュリアード・ポエム学院を首席で卒業したエリートボエリーマン。日本語はクライです。黒猫の単語帳はゆきずりの詩集。シリウスだと尻とASSが仲良く並んでいて、アメリカと日本みたいでご機嫌。耳垢が漢方薬だったりしたらもっとご機嫌。シケモクが人差し指と中指を焦がしてちょっと大変。どこの道を歩いても、どっかの駅には着く。道先案内人は路上の石で破壊して、水道が破裂して水漏し。Eメールしか知らない女とねんごろになったり、営業みたいな声を出して遊んだり雨だとか雨の効果音だとかわからないこれは、スイッチのないマイクの言葉。向かう途中で揺られる電車の盛況に負けるな、鉄腕ポエム。大阪に全国規模で詩人が集結。日本の詩の朗読会、アジアでの開催への試金石。よろしくね来年2月11日12日。

もーれちゅ!マウス絵道場!

「カエル天国」絵：そのコメント：かなよ

ココルームにいるアフリカツメガエル。金魚のまみちゃんの友達に、とPちゃんが買ってきた。結局食べ物が違うので同じ水槽に住めずガラス越し友人。そのうち1匹が脱走。乾燥死。もう1匹もなぜか溺死。また2匹やって来たが、1匹は謎の死を遂げた。カエル天国。



today's

12/365

「人質」という表現はありか

採取日時：2004年10月27日(水) 22:05 採取場所：ココルーム

イラクに行った日本人の人質ニュースが事務所でも話題になったとき、PPPCBNの名物ブック担当坂本ぶいでんく齋がこう言ったのだ。この人は観客に危害さす及ばなければ、シロクマでもPPPPに出演させるつもりだ。だから「人質」が舞台にあがってパフォーマンスをしてくれるなら表現させたいと思っているのだ。わたしは真面目な性分なので「その人が人生をかけても表現したいことがあるなら、交渉したらいいんじゃない?」交渉する方も人生を賭けるから、PPPPはときどきおもしろい。

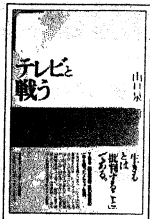
テレビと戦争

山口泉著 日本エディターズスクール出版 ¥2266

ともに、この時代を生きるあなたへ：★★★★

「生きる」とは「批判すること」である。

そう断言する著者は、テレビを幻影の第二政府だととらえている。戦う相手は、直接にはテレビ局、連携する大新聞。それに連なるのは、何かを言い訳にするジャーナリスト、体制のギルドに巣食う有名文化人、企業と、最終的には「国家」そのものと戦うことを意味する。



わたしはもう15年ほどテレビを所有していない。実は数年前のアメリカのWTCに飛行機が突っ込んだ映像をいまだに見ていない。「テレビとは勝手に都合良く編集されているもの」だということに気づいたのは、若い頃に一年間テレビに出た体験を通してだった。それからテレビに対して注意深くなくなったのだ。知りたいニュースは自分で調べることにした。けれど、わたしのテレビを所有しない態度というのは消極的なものすぎないなあ、と本書を読んで思った。本書が上梓されたのは1995年。日本人の人がテレビをみつめていた時代だと思う。そして04年のいま、テレビはますます現実のわたしと乖離しているように思うのだが。

詩人の恋人3

桑原竜介

近頃、世間じゃ楽しくない事件が多いけれども、みんなどうしてる?

おれは相も変わらず詩の朗読三昧。声かつかかば何処へでも飛んで行って「詩」まくりあげる。この秋で面白かったイベントは「夜の鳥取砂丘の中心で詩を叫ぶ」。タイトル通りの無謀な企画で、まさにマジカルポエトリーツアー。それから東京の人気シリーズ「鉄腕ポエム」。昼夜2回合計11時間興業とこちらも無謀。エンディングで主催者の近藤洋一が、次回大阪での開催を宣言。cocoroom関係者及び関西のぼえ者は急いで観音を隠す。もう手遅れだとは思うが。他にも色んなイベントで「詩」まかった。思えばこんな生活をもう5年も続けている。毎日とても楽しい。楽しいのだが、最近ちょっと飽きてきた。何か違う事がしたいなあ。そんな事を考えていた折に、ある企画者から一本の電話。しかもその内容は朗読ライブではなくて、芝居への出演オファーだった。そうか芝居か。これは面白い。だって今までとは毛色の違う女共と出会うチャンスじゃねえか。なんてたって女優だぜ、おい。「ジョ・ユウ」。いい響きだねえ。おれが迷う事なくオファーを快諾したのは言うまでもない。と、こころが。だ。顔合わせに行つて恐るべき事実が判明した。ななんと今回の企画は完全なる男芝居だったのである。つまりキャストはむさ苦しい野郎ばかり。聞いてないよー。しかし、悪いことばかりでもなかった。今までに経験した事のない身体表現や発声法を要求される日々の中で、おれの内面に新たな目覚めが起きている。これはこの先役に立つぞ。勿論詩の朗読や様々な表現行為などのそんな小さな事柄はどうでもよくて、わかるよな。

ホテルエスカルゴ(前篇)

上田假奈代

新今宮駅の高架をくぐり西成地区に足を踏み入れた。急に男の世界になる。大量の男たちが立っている。道路にしゃがみこんでいる。道ばたに腰掛けている。ちんちん電車の線路をまたぎ、あいりセンターの方向へ。ローソンの角を左に。もっとたくさんの男たちが立っている。わめいている男もいる。わたしたちはじろじろと見られ「奇麗な着物やなあ」と擦れ違いつまに声をかけられる。そして、右手にカタツツリの看板。Bridgeの内橋さんが常宿しているホテルエスカルゴを紹介してもらったのは、1泊1800円という驚きの値段だったからだ。遠方の出演者Kさんをわたしが地図を片手に案内したときのことである。

深夜のため正面玄関は閉まっていて、裏口のインターホンを鳴らした。中に入るとフロントがあり、その脇には食料品が売っている。普通のビジネスホテルの雰囲気とは少し趣きが違うが、ドヤ(宿を反対にした女宿のこと)ともまた違う。短い時間だったがフロント係の人は親切だった。靴を脱いでスリッパにはきかえるようになっている。壁に貼られているポップは優しい言葉。「中庭でくろいでください」部屋を見せてもらおうとしたが、女性は女性専用フロアしか入れないので、止められた。フロント前で待ち、貼り紙などを見ていると、おぼろげながら様子分かってきた。週に一度は診療所からお医者さんがきてくれるらしい。そして1階を見渡したただけで驚くほど、掃除が行き届いている。誰かが集中力をもってこのホテルを維持していることを直感で感じた。宿泊者とても大事にしているのが伝わってくる。

このホテルを管理しているのはどんな人物なのだろうかと興味かいた。Kさんは荷物を部屋に置くと、今度はわたしをフェイバリットまで送ってくれた。再び男通りを戻った。エレベーターのなかに「かたつむり便り」という、ここに住む人が書いた新聞が貼ってあったと教えてくれた。ぽえ犬通信にホテルエスカルゴのことを書きたいと思い、取材の電話をかけた。快く引き受けてくれ指定の時間に出かけた。

フロント横の応接室に通されると、茶髪のふんわりした巻き髪でジャージー姿、でも爪はピカピカの女性が名刺を差し出した。長谷川さんの肩書きは代表取締役。わたしよりも年下かとお見受けしたこの女性が、このホテルを支えているのかと驚いた。優しい口調で話をはじめてくださった。ホテルの開業は19年前にさかのぼる。耐震性を考えて建物は2棟。その間が中庭である。部屋は190室。長谷川さんは嫁いできてこの春から本格的にこの仕事に携わり、常時140人のお客さんをうけておられる。ホテルエスカルゴは西成によくある福祉マンションであり、ウイークリーマンションとして1泊もできる形式である。7、8階は月極(48000円)の人が住み、共同のキッチン。屋上に洗濯場もある。1階に大浴場。2階は女性専用フロアで廊下には観葉植物が置かれ、こざっぱりとした部屋とふたつのお風呂がある。2階から6階がホテル形式でシングルとツインの和室がある。中庭には石畳が敷かれ、すだれと盆栽があり、小さいながらも心遣いのある空間である。隣の大浴場から楽しいお喋りの声が響いている。これらを案内してもらいながら、長谷川さんがジャージー姿の理由がわかった。掃除をなさっていたのである。

ホテルエスカルゴ http://www.eonet.ne.jp/~escargot/



BOOKS ARCHIVES

20:30start 入場無料(要ドリンクチケット)

声が明日のページをめくってゆく / 朗読: 上田假奈代、ウォン・ジクスー

上田 11/15(月)第31夜 12/6(月)第33夜 12/13(月)第35夜 1/9(火)第37夜 1/24(月)第39夜
ウォン 11/29(月)第32夜 12/9(木)第34夜 12/20(月)第36夜 1/17(月)第38夜 1/31(月)第40夜

P.P.P.P.C.B.N ~cocoroom booking night~

19:00start ¥1,500+1d

- 11/26(金) オークストラ、残酷酋長、プロダクト 江崎、PirateLove
12/5(日) TASKE、ラブハンター熱い肌、ZUDAZUDA、夏撃波、クギミヤ
12/10(金) タチヒロシズ、横山千秋、似非浪漫、ほか出演者募集中
12/24(金) 山内桂VS上田假奈代、ほか出演者募集中
12/25(土) P.P.P.P.C.B.N.ひとりぼっちたちのクリスマス「ソロ」
ワタナシゴ、ケン・スギサキ、丘田イージマン、TASKE、小川きよへ、ワルソウバクト
12/26(日) P.P.P.P.C.B.N 猫犬な夜 第六夜
アタマトンビズ、蛸の吸盤、キタニヤスタカ、コマイナース ほか
12/27(月) STYLE、ほか募集中
1/8(土) 斉藤友秋、ほか募集中
1/21(金) 人口の夜、ほか募集中
1/22(土) 拍尾振、ほか出演者募集中
1/28(金) 出演者募集中

お知らせ 11/26,12/5,12/24,1/22,1/28
P.P.P.P.C.B.N.にオープンマイク「実験精神」
持ち時間5分(セッティング2分以内)を3組募集
さしお待情報!! P.P.P.P.C.B.N.3回通し券で 3,000円

上田假奈代のぼえ茶会

20:00start ¥500+1drinkオーダー

- 11/12(金) ぼえ茶会 vol.22 「フリーペーパー編集部ギャザリング」
12/17(金) ぼえ茶会 vol.23「上田假奈代の人生相談」
1/19(水) ぼえ茶会 vol.24 生きる仕事シリーズ
海外開発支援活動レポート「大阪/マニラのグローカリズム雇用・開発・アート」

文学トコトコ

20:00start 1drinkオーダー

- 11/16(火) U2とホームヘルプサービス~30代の失業者達へ~
語り部:コマイナース(介護労働従事者コンビ)
12/8(水) レニ・リーフェンシュタールの「回想」~20世紀の過ぎ去った日々~/司会:晴瓶シウジ
12/14(火) エミリー・ブロンテの孤独な魂~アングリア王国の物語と嵐ヶ丘~/語り部:晴瓶シウジ
1/5(火) ガルシマルケス「百年の孤独」を語る会~20世紀文学の最高峰ですわ~/語り部:晴瓶シウジ
1/11(水) 若い頃に読んだ筒井康隆~こらふんしたよな~/ナビゲーター:晴瓶シウジ
1/12(水) 司馬遼太郎の幕末がゆく~刃物な青春~/語り部:川浪剛
1/13(木) アーティストとしての音楽教育~音楽教育の現場から語る~
語り部:斉藤未央 ホスト:阿佐田亘
1/14(金) ぼくのおじさんの好きなマンガ~アラレちゃんまでを終焉とした少年漫画について~
語り部:シャック三原
1/18(火) 集まれ!オタク会議 ~うなるような洗いなネタ~/世話人:切通くとイージマ
1/26(水) 「向田邦子への詫び状」part1 /語り部:柳澤尚樹 聞き手:川井田祥子(オフィス祥)

cocoroom cafe 企画

20:00start 1drinkオーダー

- 12/21(火) cocoroomで忘年会「鍋ぶぎょうは誰だ!」開始時間はだたら/旗本:上田のぞ美
12/22(水) 「金友トコトコ」業務用自転車改造計画について語ろうvol.1/浪速自転車
1/3(月) 新春おめでとう!「お好み焼き対決!」時間だたら/西:のぞちゃん 東:イージマ
1/20(木) 映画ええがなvol.3「邦画ホガホガ」/司会:上田のぞ美(邦画好き)
1/27(水) 「金友トコトコ」業務用自転車改造計画について語ろうvol.2/浪速自転車

Chimes~prick up your ears~

12:00~22:00 入場無料

11/23(火・祝)~12/5(日) vol.12 市村桂子(写真とことば)「バレード」
*出展者募集中。詳しくは wataru@kanayo-net.com(キュレーション担当:阿佐田)まで

coco サウンドストリート

20:00start 1drinkオーダー

- 12/15(水) チャグ&飛鳥~僕らの恋人はワイン色~/にせDJ:柴田シュウジ
12/16(木) ゼルダ!ゼルダ!ゼルダ!/にせDJ:上田のぞ美
1/25(火) ブライアンウィルソンの「スマイル」を語る会~/にせDJ:ウクレレ前田とイージマ



特定非営利活動法人こえとことばとこころの部屋



zip556-0002 大阪市浪速区恵美須東3-4-36
フェスティバルゲート4F
tel.06-6636-1612 tel&fax. 06-6636-1662
http://www.kanayo-net.com/cocoroom/

- *地下鉄御堂筋線・堺筋線「動物園前駅」5番出口直結
*大阪市営バス「地下鉄動物園前停留所」すぐ
*JR 環状線・関西線「新今宮駅」下車 徒歩すぐ
*南海電鉄本線・高野線「新今宮駅」下車 徒歩5分
*阪堺電軌鉄道「南霞町駅」下車 徒歩すぐ
*駐車場(有料)

■新世界アーツパーク http://www.sap-s.jp

■11/19(金) Coco de Noh(ココデノウ)「謡と太鼓の面白さってなに?」
18:30open 19:00start ¥2500(drink付)
謡:片山清司/太鼓:山本哲也 問合わせ・申込み:E-MAIL:cocodenoh@log-osaka.jp
TEL:090-9982-9116/定員:65名限定 *2回通し+Bridge Nohの特別割引券(9,000円)あり

■11/23(火・祝) LOOP LOOM

18:00open 19:00start ¥1,000+1drink
出演:Bernhard Wagner (Guitar,Loops) from チューリッヒ、スイス
James H. Sidlo (Guitar,Loops) from テキサス、アメリカ
石上和也 (Computer)、小西健司 (Computer)、稲見淳 (Computer)

■12/3(金) む革命計画隔月公演vol.3「骨組-honegumi-」

18:30open 19:30start ¥1500+1drink
出演:む革命計画 /主催:空間 悠々劇的 http://www.gekitekite.com

■12/4(土) インド古典音楽と舞踊公演

昼の部/14:30open 15:00start /夜の部/18:30open 19:00start(一公演、50名様まで要予約)¥2000+1drink 出演:小林祐介、金子哲也、村上幸子 http://www.2cdn.jp/~ctb65220/

■12/29・30(木・金) 雲気楼プロジェクト03-05「赤い草」

12/29(水) 19:30start 12/30(木) 19:30start 前売2,000円 当日2,300円(ともに1ドリンク付)
構成・演出・美術・出演 岸昆虫 チケット予約:ウラナチ 06-6973-8590 kish@tkk.att.ne.jp

■1/9(日) 横田将士映像個展「観る」

2フロ入場料:¥500+1drink A/B 2001-2003年制作作品/Bフロ 2004-2005年制作作品
A 16:00-B 17:20-A 18:40-B 20:00- *各プログラムは60分程度(各回入替えなし)

上田假奈代の詩の学校

INF:cocoroom

11/10, 24 12/8, 22 2005年 1/12, 26(すべて19:30~21:30 授業料¥1000/1回)
会場:應徳院 大阪市天王寺区下町1-1-27 tel:06-6771-7641 http://www.outerin.com

声とことばのワークショップ

INF:cocoroom

11/26 12/23 すべて金曜日 13:30 無料
会場:視覚障害者リハビリセンターライトハウス 大阪市鶴見区今津中2-4-37

関連情報

■絵とパンのあいだ~美術作品の前で朗読する

11/13(土)15:00~ 入場無料 朗読:上田假奈代
会場:INF:大阪府立現代美術センター 展示室A 06-4790-8520
■てらまち極楽ストーリー-第3話 寺町・アート編「極楽・声と音のアート」
11/19(金)19:00~21:00 ¥1500
出演:下町寺の若手僧侶の会・三彌会のみなさん ゲスト:上田假奈代(詩人) 会場:大覚寺
■森田太郎と上田假奈代と世界の果てに~時とダンスがエロスと音楽
11/30(火)19:30 ¥2000(1ドリンクつき)
出演:森田太郎、上田假奈代と世界の果てに/ゲスト:加久裕子、鈴木陽一・レモン、江藤夏夏
会場:KDハボン tel.052-251-0324

■アイノ越冬

2004年12月28日(火)16:30
出演:上田假奈代(朗読)、川崎知(A.SAX)、中島直樹(BASS)/料金:投げ銭
会場:1部(16:30)・サイクル太子 tel.06-6632-4533 2部(17:30)・サイクル話の話 tel.06-6647-3468

■DANΞO Exhibition「本とオドルルルル」

12/10(金)17:00~17:30 ¥1500
エメズキ/スペシャルゲスト:上田假奈代 会場:iTohen 企画・製作double.B
■読歩PROJECT vol.1 「視覚障害者と読者によるアート体験ツアー」12/26(日)14:00~17:00
¥800(介助者割引600)+材料費(500円程度)会場:1room tel.078-512-0125
「アナログ紙ニケーション」の展示鑑賞とワークショップ参加

Cocoroomでは、寄付をつっています。

運営のための寄付をつっています。ご寄付いただいた方には、お名前を「ぼえ犬通信」に掲載させていただきます。5000円/1口 何口でも結構です。

郵便振替 記号01090-5-48059
cocoroom代表 ウエダカナヨ

三井住友銀行 船場支店 普通 2140440
cocoroom代表 ウエダカナヨ

宮前さんのさ、歴史研究家の某様よりお心添え頂きました。

編集後記:12月以降、何気にコンテンツ拡大したカフェ企画。
ためになる(!?)お話を、美味しいお酒と共に楽しんでみませんか? (わ)

■cocoroomをご活用ください

あなたの活動がもっとスムーズに、そして継続できるよう協力体制でのぞみます。企画書をもってお話にきてください。
使用管理料:¥50000/1日 お気軽にご相談ください。
お得な「co屋」バックもご利用ください。

■スタッフ求む!!(びよんびよん通信)

びよんびよんスタッフ(ボランティア)から、有償スタッフまで。
現場感あふれるココルームと一緒に活動してみませんか。
10びよんびよん稼いで頂いたスタッフには、1PPPP(cocoroom主催イベント、PPPPCBNの一回フリーパス券)を進呈。